

海浜の自然環境を守る会ニュース

第55号 2018年6月15日

663-8143 西宮市枝川町19-10 甲子園浜自然環境センター内 甲子園地区埋立事業対策協議会気付

<http://www.npo-koshienhama.com/>

第15回通常総会

4月29日(日)午前10時より、甲子園浜自然環境センターにおいて、第15回通常総会を開催しました。

西宮市より山本土木局局長、伊藤公園緑化部部長、岸本みどり保全課課長、仲井甲子園浜自然環境センター一長のご臨席をいただきました。

第1号から第5号まで全ての議案が滞りなく承認されました。本年は役員改選の年にあたり、新役員体制は以下になりました。

理事長 前田文信

副理事長 菅野雅一、前野裕美子

理事 青石弘、泉敏夫、岡田孝二、白川政昭、

高松眞一、長村富美子、山縣國宏

監事 小川哲男、高橋良三

なお大西夏江前理事長、石埜和男前理事、中島徳郎前理事は退任いたしました。今後とも会のために協力してください。5月末での会員数は97名です。

シギ・チドリ観察会

総会に引き続いて午後1時より、日本野鳥の会ひょうごの杉田義彦講師を迎えて、シギ・チドリ観察会を行いました。30名の参加でした。

シギは世界に86種、日本に52種、そのうち甲子園浜で8種見られます。チドリは世界に63種、日本に12種、甲子園浜では4種見られるそうです。

近年甲子園浜を訪れるシギチドリ類は減少していますが、この日、岩についたフジツボなどを食べるキョウジョシギ、コアジサシ、キアシシギ、イソシギ、ハマシギ、チュウシャクシギ、コチドリ、ササゴイ、アオサギ、コサギ、オオバン、セグロカモメ、ヒドリガモ、カワウを見ました。

ごあいさつ

この度、大西夏江さんの後任として理事長を引き受けました前田文信です。

9歳の時にこの地に引っ越して来て65年になります。子どもの頃から海水浴、磯遊び、魚釣り、三角ベースの野球など親しんできたのが甲子園の浜です。

鳴尾から甲子園への発展の中で、鳴尾モダニズムの特徴である新しいものには飛びつくが古いものは捨て去るといった文化があったり、戦中、戦後の不幸な時代があったりして残すものが必要と活動の重要性を感じています。

昭和40年の甲子園浜海水浴場の閉鎖、昭和50年の甲子園線の廃止など甲子園浜への関心が薄まる中、埋立問題を経て見事に残された砂浜と干潟の自然を守る活動に時間と労力を割いていただいた先輩方の使命を引き継ぎ、後の世代に残す活動のお手伝いをさせていただき所存です。

皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

理事長 前田文信

第11回大阪湾生き物一斉調査

今年のテーマはタマキビガイ。甲子園浜では通称屏風岩で、タマキビ、マルウズラタマキビ、アラレタマ



キビの3種が見られます。講師の大谷道夫先生が説明してくださいました。

46名の参加でした。

結果発表会は10月14日大阪市立自然史博物館で行われます。

「大阪湾生き物一斉調査 情報公開サイト」

<http://kouwan.pa.kkr.ml.it.go.jp/kankyo-db/life/>

甲子園浜自然環境センター ミニミニ水族館訪問



公園に隣り合っている西宮市立甲子園浜自然環境センターは、遊んでいる子供たちが飛び込んできて入り口にあるミニミニ水族館をのぞいたり、3階のタッチプールでカニや貝を触ったり望遠鏡をのぞいたりして、日常的に親しまれている施設です。改めてミニミニ水族館を訪ねてみました。

人気者のアリゲーターガーは1997年鳴尾新川で見つかった、時々空気呼吸をするために水面に顔を出すという。その時を見たくて長居してしまいます。



右側に海水の生き物、コモンフグ、キュウセン、カサゴ、カワハギの水槽があり、続いて淡水のカワアナゴ、タモロコ、ブルーギル、クサガメ、中央にミシシippアカミミガメの大きな水槽、左にメダカ、アメリカザリガニ、ニホンイシガメ、ギンブナ、オイカワ、ゲンゴロウブナ、イモリ、ドジョウが飼育されています。



飼育を担当しているスタッフの方々は、水の交換、水槽の掃除が大変で、餌を食べてくれないとなぜだろうと心配になりますが世話をしていると面白いし、どの生き物もみんな好きになります。カニが脱皮して一回り大きくなったり、元気に泳いでいるのを見るとうれしいと話されました。

魚もクラゲもイモリも見ているとなかなか可愛く、自然界の不思議に思いを馳せます。

気がついたのは、施設の老朽化です。スタッフの懸命の手作りの表示が苦勞を物語っていますが、壁が剥がれていたり、海のそばなのに海水魚が少ないのは海水での管理に費用がかかるからようです。環境学習都市西宮を体現する施設として2002年11月に自然環境センターとして開館し、大阪湾に残された貴重な甲子園浜を発信していくという役割を果たすために、施設内容をもっと充実させて、人類の貴重な財産「海」を未来へ渡していく西宮市の拠点となって欲しいと思います。 岸川 由紀子

はまん婆のひとりごと

ホソウミニナ

5月27日大阪湾生き物一斉調査でホソウミニナが確認された。

講師の説明を受けたMさんとSさんは、さっそく見分けをためした。選んだ10個体のホソウミニナを講師に見てもらったら両者とも100点だったようだ。

講評の時の「ホソウミニナには滑層瘤（かつそうりゅう）は無い」の言葉が印象的だった。滑層瘤とは貝口の上部にある三角形の所が白く盛り上がっているものでウミニナ独特のものだ。

ウミニナがズングリメタボに対しホソウミニナは名の通りやや細くスリム。殻底側から見るとホソウミニナは丸く、ウミニナは十三夜の月的に平ら。



左ホソウミニナ

左ホソウミニナ

右ウミニナ

右ウミニナ 殻底側

成貝はどちらも殻長25ミリ~35ミリだが、それ以下の若貝はよく似ているので判別は困難とネットにあった。はたして私は何点取れるだろう。自信はない。

東山 直美

活動報告

- 5月6日 シギチドリ保護のチラシ配り 18名
- 6月3日 海浜清掃 94名 可燃ゴミ420kg、不燃ゴミ20kg (ヤマサ環境エンジニアリング調べ)

活動予定

- 6月16日(土) 甲子園浜の歴史を学んで海を探検
- 7月7日(土) 東高校文化祭出展
- 7月15日(日) ブルーサンタになって海浜清掃
- 7月29日(日) 南甲小・青愛協生き物学習会

🦎 今年は浜甲子園特別鳥獣保護区指定40周年 🦎

秋には記念の特別展を開催します。保護区を映した写真など公募します。ご期待ください。